

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：44424

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25580106

研究課題名(和文) 英米演劇の科白の電子化とその文体分析

研究課題名(英文) Digitizing and Stylistic Analysis of Dramatic Speeches

研究代表者

能勢 卓 (NOSE, Takuji)

京都聖母女学院短期大学・児童教育学科・講師

研究者番号：70626837

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において、Eugene O' Neillの43の演劇作品[約100万語]並びにSomerset Maughamの2作品(約6万語)のテキストの電子化を行い、台詞の文体分析の基礎データとしてのコーパスを作成した。本研究において作成したコーパスを用いて登場人物の台詞の文体分析を行うことにより、登場人物の対話の台詞と心理傍白の台詞双方の語彙的・統語的特徴の差異の分析や、登場人物の内面の葛藤などを表す台詞においてどのような言語的工夫が施されているのかが検証出来た。またYale大学Beinecke図書館において文献調査を行いO' Neill作品の草稿など貴重な研究資料を入手出来た。

研究成果の概要(英文)：In the present study, I've made a corpus consisting of 43 dramas (approximately one million word tokens) created by Eugene O' Neill, as well as a corpus of two dramas (approximately sixty thousand tokens) by Somerset Maugham. These corpuses are regarded as effective basic data for stylistic analysis of dramatic speeches. Lexical and syntactic information gained from the corpus make it possible to conduct diverse levels of analyses that help not only to illustrate characteristic differences in styles between two different types of speech, such as dialogical speech and thought aside; but to examine what linguistic manipulation a playwright performs to make a speech vivid and impressive in the given context of a dialogue in order to project a character's hidden conflict of his/her mind. In addition, I conducted manuscript research of O' Neill's dramatic works at Beinecke Library at Yale that provided me with quite important manuscripts for stylistic analysis.

研究分野：英米演劇の台詞の文体

キーワード：台詞の文体 コーパス文体論 英米演劇 Eugene O' Neill マニユスクリプト研究

### 1. 研究開始当初の背景

英米の演劇作品に関しては、国内においては文学的・演劇的側面について様々な研究が、また国外では文学的・演劇的研究に加え、Short (1996), Culpeper (2001), McIntyre (2004), Leech and Short (2007, 2nd ed. [1981])などでは、演劇作品における文体的特長が議論されてきた。しかし詩や小説における文体研究と比較した場合、演劇言語の文体研究は必ずしも質・量共に充実しているとは言いがたい面があり、それ故本研究に着手するまでに、私は Eugene O'Neill を中心としたアメリカの演劇作品の台詞の文体的特徴に関する研究に取組み、例えば Nose (2010)において、O'Neill の *The Great God Brown* の台詞における語彙(主に形容詞と動詞の使用状況)と文構造の分析を通して、台詞においてなされた言語的操作について検証し、また国際会議 PALA2009 では、現存する 5 つの草稿の草稿間の語彙的・統語的变化を含めて分析を行い、その文体的特長について考察を加えた。

上記の様な研究を経て、個々の作品の台詞の文体研究が大切である一方で、同時に劇作家の全作品の中での語彙的・統語的分析も、台詞の文体を研究する上で重要なことであるという結論に到った。それ故劇作家の全作品を電子化することにより、作品全体を俯瞰した上で個々の作品における主要品詞(名詞、動詞、形容詞、副詞)の使用状況や文構造の分析から台詞の文体的言語的特長を研究することが重要であり、また電子化されたデータは今後他の研究者にとっても基礎的なデータとして有効な資料となると考えられる。そしてコーパスなどを用いた多角的文体分析に加えて、劇作家のアイデアノートやマニュスクリプトを調査・分析することを通して、創作過程において台詞に施された言語的工夫のプロセスの検証から、演劇作品の台詞における効果的言語化の一端を明らかにすることで、台詞の文体分析を更に進めていくことも必要なことであると考えられた。また本研究を着手する以前において私は悲劇作品の台詞の文体研究を中心に進めて来たが、本研究においてはコミュニケーションの場面のバランスの上からも、喜劇作品の台詞の文体研究をも視野に入れて研究を進めていくことも必要なことであると考えられた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、英米の演劇作品の文体分析の基礎的データとなるテキストの電子化と、その電子化されたテキストを用いて台詞の文体や言語的特長を多角的に分析し、様々な場面における登場人物の多様な伝達内容が、いかにして効果的に言語化され、その上で登場人物間のコミュニケーションがいかに効果的に展開されているのかに関して調査・研究を進めていくことである。また本研究は、台詞の文体を分析していく上で、劇作

家のアイデア・ノートの検証や草稿レベルにおける台詞の文体上の変化をも調査・分析を試みる点で挑戦的である。つまり本研究は、電子化されたテキストによる多角的文体分析のみならず、台詞の創作過程から見えてくる伝達内容の効果的言語化の一端を明らかにしていくことをも視野に入れ研究を進めていった。

### 3. 研究の方法

本研究の研究方法の要点としては、次の 5 つがあげられる：

- (1)対象劇作家(O'Neill [主に悲劇作品の台詞の文体分析]; Maugham [主に喜劇作品の台詞の文体分析])の演劇作品のテキストの電子化
- (2)電子化されたテキストを用いた演劇作品の台詞の文体分析・語彙と文構造の分析
- (3)電子化されたテキストを用いた演劇作品の対話や独白など種類の異なる台詞の文体分析
- (4)対象劇作家のアイデア・ノートや草稿の調査とマニュスクリプト資料の電子化(画像資料)
- (5)アイデア・ノートや作品の草稿の分析から見出される台詞の言語的特徴の検証

上記のそれぞれの項目に関して、以下に簡単に概略を記す。

- (1) 対象劇作家の演劇作品のテキストの電子化は、対象劇作家の戯曲を OCR により電子化した上で、全ての電子化されたテキストを既存のテキストと照合し、電子化の過程で生じたエラーを全て取り除き、「テキスト文書」として一作品ずつ保存していった。
- (2) 電子化されたテキストを用いた演劇作品の台詞の文体分析を行うために、それぞれの作品のテキストデータから、台詞の分析に必要なとしない要素(例: 登場人物一覧など)を削除した上で、エクセル上でデータを編集した。エクセル上でデータの編集では、発話者情報を付加した上で、登場人物ごとに、発話内容とト書描写にわけて分析出来る様にデータを加工した。この加工されたデータをもとに、分析対象作品の中の各登場人物ごとの発話語数、平均文長、語彙リストを作成し、台詞の文体分析を行った。
- (3) 電子化されたテキストのデータに発話者情報に加えて、聞き手情報、台詞種類の情報(対話における台詞 [Dialogical Speech]か、独白[Soliloquy]か、心理傍白 [Thought Aside]かの情報)を付加し、異なる種類間の台詞の言語的特徴の分析を行った。

- (4) O'Neill の演劇作品の初期と中期の作品のアイデア・ノートや中期 3 作品の草稿を、イエール大学バイネキ稀観本図書館において調査し、同図書館より所蔵資料の提供を受け、アイデア・ノートや必要とされる演劇作品の草稿を電子化し、それぞれの作品の手書き原稿・タイプ原稿双方の草稿のデータ化を行った。
- (5) アイデア・ノートや草稿のデータから得られた情報を用いて、劇作家の作品に対する意図や異なる種類の台詞を利用するなどの演劇手法上の意図を調査し、演劇作品の台詞における効果的言語化の一端を検証した。

#### 4. 研究成果

上記の「3. 研究の方法」に記した(1)から(5)の区分に対応した形で研究成果を以下に記す。

- (1) O'Neill の全 50 作品中、以下の 43 作品のテキストの電子化を行った：

作品名	語数	作品名	語数
<i>A Wife for a Life</i>	3583	<i>Diffrent</i>	19247
<i>The Web</i>	5656	<i>Marco Millions</i>	29680
<i>Thirst</i>	8460	<i>The First Man</i>	21155
<i>Recklessness</i>	7217	<i>The Great God Brown</i>	21470
<i>Warnings</i>	7103	<i>The Hairy Ape</i>	15741
<i>Bound East for Cardiff</i>	4544	<i>Lazarus Laughed</i>	30125
<i>Abortion</i>	6326	<i>The Fountain</i>	23029
<i>Servitude</i>	19470	<i>Strange Interlude</i>	64229
<i>The Sniper</i>	4957	<i>Welded</i>	14422
<i>The Personal Equation</i>	25865	<i>Dynamo</i>	24927
<i>In the Zone</i>	6960	<i>All God's Chillun Got Wings</i>	13233
<i>Ile</i>	6170	<i>Mourning Becomes Electra</i>	69587
<i>The Rope</i>	9270	<i>Desire Under the Elms</i>	21310
<i>Beyond the Horizon</i>	37074	<i>Ah, Wilderness!</i>	36729
<i>Shell Shock</i>	5974	<i>The Iceman Cometh</i>	60083

<i>The Dreamy Kid</i>	6016	<i>Days Without End</i>	24342
<i>Where the Cross Is Made</i>	6117	<i>Long Day's Journey into Night</i>	43569
<i>The Straw</i>	28711	<i>A Touch of the Poet</i>	38621
<i>Chris Christophersen</i>	33655	<i>Hughie</i>	9232
<i>Gold</i>	23074	<i>More Stately Mansions</i>	10696 3
<i>Anna Christie</i>	25945	<i>A Moon for the Misbegotten</i>	33953

また Maugham の喜劇作品に関しては、*Our Betters* (31,862 語)と *The Constant Wife* (27,574 語)の二作品の電子化を行った。

(2)今回の研究において作成した電子化テキストを利用することにより、それぞれの作品の中で描かれた登場人物の人物像に関して、台詞の言語的特徴の分析に基づく合理的説明がなすことが出来るようになった。例えばそれは、能勢の 2014 年 10 月 5 日の *Days Without End* [以下 DWE と略記]に関する研究発表において、本研究で作成した電子化テキストをコーパスとして用いた台詞の文体分析においてその有効性の一端が示された。DWE の主人公である John Loving は、真理・信仰・生を求める素顔の John と、懐疑・悪意・死を求める仮面の Loving に分裂して舞台上に登場し、善と悪の葛藤(good-evil conflict)が明示的に舞台上に表出されていると、これまでの文学研究において考えられてきた。そこで精緻化したコーパスを用いて、John と Loving それぞれの台詞の中の“love”の使用状況を分析すると、John は“love”を合計 40 回(8.04%)、また Loving は“love”を合計 15 回(5.31%)使用していることが分かり、そして更に分析を進めると、以下の図(1)に示す様に、John の“love”のコロケーションを視覚化した場合、“god,” “his,” “thy”などの神の存在を表す語彙とのコロケーションが多く現れ、それとは反対に Loving の“love”とのコロケーションでは、“hate,” “hated,” “betraying,” “revenge”という語彙が多く現れてきた。この Visualizer の結果に端的に表されている様に、John と Loving の台詞の中での“love”のコロケーションを分析すると、John の場合は肯定的な意味を担う語彙との共起が、それとは逆に Loving の場合は“hate”などの否定的な意味を担う語彙との共起が明らかとなった(図(1)を参照)。

図(1)



このように今回作成したデータをコーパスとして利用した語彙データにコロケーションの分析を加えることにより、これまでなされてきた文学的解釈に、語彙その他のコーパスデータという言語的側面からサポートされた合理的説明をなすことが可能となることの一例が示された。

(3)今回作成した電子化テキストに台詞の種類に関する情報をそれぞれの台詞に付加することにより、対話における台詞(Dialogical Speech)に加えて心理傍白(Thought Aside)の台詞の双方の言語的特徴を分析することが可能となった。例えばそれはNOSÉ (2015)の論文において、O'Neillの*Strange Interlude*の台詞を対話における台詞と心理傍白の台詞に分け、心理傍白を発話者の理性的思考を表す心理傍白と話者の衝動的感情やエゴが表出されている心理傍白に分けた上で、それぞれの心理傍白において使用されている単語の相対頻度や平均文長や代名詞の使い方などを中心に分析と考察が加えられた。例えば Evans 夫人の心理傍白における 49.55%の“got to”の使用は正に Act III において Evans 夫人が「しなければならない」重要なことがあり、そのことを彼女が強く意識していることを如実に表していることが例示された(図(2)を参照)。

図(2)

WNC - Interlude - Mrs Evans - 74.txt	11	Found in	3	Files	File
1	Got to start in to tell her . . . got to . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
2	no other way . . . in mercy . . . in justice . . . this has got to end with my boy . . . and he's got to live happy! . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
3	Got to start in to tell her . . . got to . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
4	about having one . . . I got to have it out with her . . . got to! . . . no other way . . . in mercy . . . in justice . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
5	if only she doesn't care so much about having one . . . I got to have it out with her . . . got to! . . . no other way . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
6	Now she knows my suffering . . . now I got to help her . . . she's got a right to have a baby . . . an	Interlude - Mrs EVANS - T...			
7	ped in the door! . . . I don't think she's told Sammy but I got to make sure . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
8	on how . . . she's giving her life to save my Sammy . . . I got to save her! . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
9	justice . . . this has got to end with my boy . . . and he's got to live happy! . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
10	's got to suffer, too! . . . I been too lonely! . . . she's got to share and help me save my Sammy! . . .	Interlude - Mrs EVANS - T...			
11	ying not to believe . . . But I'll make her! . . . she's got to suffer, too! . . . I been too lonely! . . . she's got to	Interlude - Mrs EVANS - T...			

このNOSÉ (2015)の分析と考察を通して、心理傍白において理性的思考から感情的衝動までの多様な発話内容が対話の台詞の間に織り交ぜられることにより、対話の台詞では表しきれない登場人物の多様な心の機微を表出することを意図して、O'Neillが*Strange*

*Interlude*の中で心理傍白の手法を駆使したものと考えられることが明らかにされた。O'Neillは自らが舞台上に表そうと求めた人間の精神の複雑な綾や、人間の精神の奥行きを深さを示すために、ある心理傍白ではmustやas ifを用いて客観的判断を示し、また別の心理傍白においてはフレーズ・レベルの発話を連ねることにより衝動的感情が横溢している模様が表出されよう、それぞれの心理傍白の台詞に言語的工夫が施されていたことがNOSÉ (2015)において明らかにされた。

(4)対象劇作家であるEugene O'Neillのアイデア・ノートや彼の3つの演劇作品のマニユスクリプトをイエール大学バイネキ稀覯本図書館において調査し、同図書館より所蔵資料の提供を受け、それらの資料を画像資料として電子化を行った。

電子化(JPEGまたはPDF)したO'Neillのアイデア・ノートの情報は以下の通りである：

“Ideas, scenarios, and notes for plays (1920s–1930s),” ms., YCAL 123, Box 77, Folder 1425-6, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

電子化(JPEGまたはPDF)したO'Neillの三つの演劇作品の情報は以下の通りである：

• *Days Without End*

“Days Without End, Early Draft,” ms., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 48, Folder 994-996, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

“Days Without End, Early Intermediate Draft,” ms., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 48, Folder 997-999, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

“Days Without End, Later Intermediate Draft,” ms., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 48, Folder 1000-1002, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

“Days Without End, Later Draft,” ms., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 48, Folder 1003-1005, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

• *Mourning Becomes Electra*

“Notes on characters and story,” holograph, in volume, n.d., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 66, Folder 1261.

“Dialogue,” holograph and typescript carbon, corrected, n.d.,

Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 66, Folder 1263.

"Homecoming," very early draft, holograph and typescript carbon, corrected, n.d., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 66, Folder 1264-6.

"The Hunted," very early draft, holograph and typescript carbon, corrected, n.d., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 66, Folder 1267-8.

"The Haunted," very early draft, holograph and typescript carbon, corrected, n.d., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 66, Folder 1269-70.

"Homecoming," early draft, holograph and typescript carbon, corrected, n.d., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 66, Folder 1271-73.

"The Hunted," early draft, holograph and typescript carbon, corrected, n.d., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 66, Folder 1274-75.

"The Haunted," early draft, holograph and typescript carbon, corrected, n.d., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 66, Folder 1276-77.

以後 Box69 の Folder 1312 まで資料提供を受け、電子化する。

・ *Strange Interlude*

"*Strange Interlude*—Notes and drawings," ms., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 72, Folder 1350, Yale Collection of American Literature, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

"*Strange Interlude*—Early draft," ms., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 72, Folder 1351-9, Yale Collection of American Literature, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

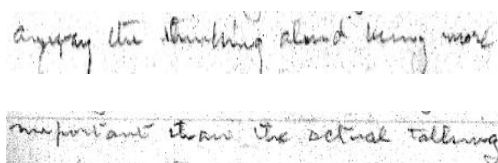
"*Strange Interlude*—Intermediate draft," ts., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 72, Folder 1360-2, Yale Collection of American Literature, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

"*Strange Interlude*—Later draft," ts., Eugene O'Neill Papers, YCAL MSS 123, Box 73, Folder 1363-5, Yale Collection of American

Literature, Beinecke Rarebook and Manuscript Library, Yale University.

(5) アイデア・ノートに記されている情報から、原作者である O'Neill がどのような意図で異なる種類の台詞を使用していたのかが明らかになった。例えばそれは NOSÉ (2015) において言及した様に、O'Neill は "Ideas, scenarios, and notes for plays (1920s–1930s)" において "anyway the thinking aloud being more important than the actual talking" (図(3)は当該箇所の O'Neill の自筆)と記している所からも、この心理傍白の手法を重視していたことが明らかにされた。

図(3)



5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3件)

Takuji NOSÉ, "A Corpus Stylistic Approach Toward Thought Asides In Eugene O'Neill's *Strange Interlude*." 『英語表現研究』第 31・32 合併号, 日本英語表現学会, 2015 年, pp. 73-87. 査読あり.

(他 2件)

[学会発表](計 5件)

・ 国際会議

Takuji NOSÉ, "An Analysis of the Malicious Dialogues Between the Mannon Ladies in Eugene O'Neill's *Mourning Becomes Electra*" PALA 2013 (Annual International Conference of Poetics and Linguistics Association), 2013 年 8 月 2 日, ハイデルベルク大学 (ドイツ).

・ 国内学会

能勢 卓, 「Force of Meaning in Eugene O'Neill's *Mourning Becomes Electra*」日本英語表現学会 第 21 回研究会, 2014 年 12 月 6 日, 東洋大学(東京).

能勢 卓, 「Days Without End における乖離相克する人物描写: コーパスデータから見てとれる内的/外的ダイアローグの言語的特徴からの考察」英語コーパス学会 第 40 回大会, 2014 年 10 月 5 日, 熊本学園大学(熊本).

能勢 卓, 「*Strange Interlude* における thought aside の言語的特徴」日本英語表現

学会第 43 回全国大会, 2014 年 6 月 28 日, 武蔵大学 江古田キャンパス(東京).

(他 1 件)

〔図書〕(計 0 件) 特になし

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件) 特になし

○取得状況(計 0 件) 特になし

〔その他〕 特になし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

能勢 卓 (NOSÉ, Takuji)

京都聖母女学院短期大学・児童教育学科・

講師

研究者番号: 7 0 6 2 6 8 3 7